

年 組 名前:

漫画家 ホテル経営に奮闘



富士河口湖

カフェ開設「文化に触れて」

富士河口湖出身の漫画家外川亜希子さん(43)が、親族から引き継いだ「ホテル湖龍」(同町浅川)の経営に奮闘している。新型コロナウイルス禍の影響に苦しみながらも、館内に漫画の魅力を紹介するカフェをオープンさせた。外川さんは「宿泊者に日本の文化に触れてもらいながら、地域からより愛されるホテルにしていきたい」と話している。

〈武田寛明〉

外川さんは同ホテルを運営する両親の下で生まれ育った。幼稚園児のころに「はだしのゲン」を読んで漫画が好きになり、漫画製作のセットを手に入れた小学6年生から漫画を描き始めた。専門学校で本格的に学び、2004年に漫画誌でデビュー。アシスタントとしても活動してきた。

両親の後を継いでホテルを運営していた叔父が体調不良になり、外川さんが後継者となったのは20年。当時は埼玉県内で漫画家のアシスタントをしていたが、同ホテルで働いていた母も体調を崩していたことから、「漫画はどこでも描ける。育ったホテルを守りたい」と決意した。

経営の経験や知識がなかった上に、引き継いだのはコロナ禍で宿泊客が通常の3割に減っていた時期。陳列された漫画を整理する外川亜希子さん。外国人観光客向けに英語版の作品も並ぶ。

「富士河口湖町浅川」

期。苦しい状況の中、一本当にできるのか、という不安ばかりだった」と振り返る。

集客につながるため、魅力と特徴づくりの一環にしようと、館内に漫画の単行本を置き始めた。手に取る宿泊客は多く、「インパウンド客にも日本の文化である漫画に触れてほしい」と、漫画カフェの開設を企画。慣れない経営のスタートレスで体調を崩す中、国の支援金を受けられることになり、改装にこぎ着けた。

漫画カフェは4月20日にオープン。ホテルの名前にちなみ「りゅうのす」と名付け、漫画や画集約1万4千冊を備えた。日本語のほか、英語、中国語でそろえている。湖畔を望めるカウンターと、集中して読める小部屋4室も作った。

7月まで町内の小中学生や保護者を対象に無料で開放する予定だ。外川さんは「宿泊客や地域の人々が漫画を楽しめる場所として、ホテルに足を運んでもらえるようにしたい」と話している。

(2024年6月4日付 山梨日日新聞12面)

問1 漫画家の外川さんは、どこに、なんという店名の漫画カフェをオープンしましたか。

・どこに: 町の の中 店名:

問2 外川さんは、この漫画カフェを、どのような場所にしたいと話していますか。

.....

.....